



あゆみ

No. 181

令和 7年 1月15日発行

編集 発行：社会福祉法人 啓明会 苓山寮・第二苓山寮
〒863-0006 熊本県天草市本町下河内 680
TEL 0969-22-5339・0969-22-1766 FAX 0969-22-5090
E-mail reizanryou@miracle.ocn.ne.jp・reizan2@muse.ocn.ne.jp
社会福祉法人啓明会ホームページURL <http://keimeikai.amakusa-web.jp/>
施設の旬の話題を「レイザンTOPIX」にて更新中です。



『不易流行』

施設長 鮑田 一夫

新年明けましておめでとうござい
ます。令和も既に七年目に入りまし
た。年齢と共に時間の経過を速く感
じるようになるのですが、令和六
年は能登半島地震に始まりあつとい
う間に駆け抜けたように、私には感
じられました。さて今年はどうな年
になるでしょうか。私も福祉畑に既
に二〇年以上になりました。その間、
制度の変化を始め障がい者福祉を取
り巻く環境は常に変わり続けてきた
ように感じます。制度上の一変の
変化は措置制度から支援費制度に変わ
ったことでしょうか。障がい者自身
が自分で福祉サービスの選べるよう
になったことは画期的だったと思
います。措置時代からの利用者は何
言っても今でも職員を「先生」と呼
ぶ癖がなくなりません。当時の写真
を見ると男性は丸坊主、女性は大抵
おかつぱ頭で、旅行には皆おそろ
いのブレザーを着ていました。現在
からすれば同じ髪型も服装も個人の
意思を無視したことになるますが、
当時としては髪もきれいに整え、お揃

いのこざつぱりした服装をさせること
が良いことだという考えがあつたのだ
と思います。時代と共に福祉という言
葉の意味するところも変わってきてい
るのです。

「不易流行」という言葉があります。
変わらないものは守り続け、変わるべ
きものは変えていかなければならない。
といった意味です。ほんの何十年の間
でもめまぐるしいほどに変わってきた
障がい者福祉の制度や価値観ですが、
その根底には変わらないものがあるは
ずです。私の二〇数年はそれを探し、
確かめ続けた時間だったような気がし
ます。それは何なのか、言葉にするの
はとても難しいです。例えば自分の子
どもに対する気持ちを一言では表せな
いのと同じように。敢えて言えば、「幸
せになって貰いたい」ということでし
ょうか。どうすればそれが実現でき
るのか、アプローチは様々あるでし
ょう。そのほうが良いと思います。た
だ一点、それが独りよがりにならないこ
とだけに気を付けねば。
今年も、職員が互いに協力しその実
現に向かって努力してくれるよう、私
も後ろから支えていく所存です。

サービスの現場より



『意思のありかを探す』
茶山寮副施設長 鮑田 逸子

一泊旅行から戻られた利用者のお一人に「旅行は楽しかったですか」と尋ねると「うん」と答えられました。「どこが面白かったですか」と聞くと答えはありませんでした。「旅館のご飯は美味しかったですか」と聞くと「うん」と答えられましたが「何が一番美味しかったですか」と聞くと答えはありませんでした。茶山寮では一部の方を除いて大半の利用者さんが5W1Hの問いには答えられません。「〇〇は好きですか」「〇〇は嫌いですか」のどちらにも「うん」と答える人も少なからずいます。

どんなに重度の知的障害者でも自らの意思を持つという考えに異論はありません。しかし、その意思を汲み取ることは水底の砂の中から一粒の砂金を探すように難しいことです。本人の地域移行の意向確認がやがて義務化されます。私達がどれだけ適切な方法で本人にアプローチできるかを抜きにしては、この制度も絵に描いた餅になっていくおそれが大きいと感じています。



『担当利用者さんへの取り組み』
茶山寮支援員 山口 瑞希

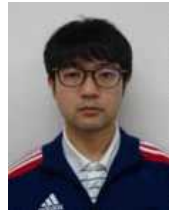
私が担当させていただいているKさんは笑顔がとても素敵で物に愛着を持たれる方です。他職員や他利用者さんのご家族、お客さんが来寮されると必ず元気に「こんにちは」と笑顔で迎入れて下さいます。今年で七一歳と高齢になられますが、歩行も大好きです。怪我や転倒防止、体力と脚力の維持を保つために朝のラジオ体操や腰痛体操と一緒に取り組んでいます。又、毎回の歩行で声を掛けると「うん、さんぽね」と返事をされ、進んで参加して下さいます。ペースはゆっくりではありますが、他利用者に負けじと最後まで歩くことが出来ておられ、まだまだ体力・脚力があります。昨年の七月中旬頃より精神状態が安定しておらず、担当への意識が強くなられ行事や活動等の声掛けには拒否が見られる様になりました。不穏行動もありそのような際には他職員が対応することで安心されています。今後もKさんにとって落ち着いた生活が送れるように支援していきたいと思えます。



『担当利用者さんへの取り組み』
第二茶山寮支援員 中村 聡希

今回は担当をさせて頂いているKさんについてご紹介させて頂きます。Kさんはとても絵のセンスがあり、塗り絵もびっくりするほど上手に塗ることが出来ます。そこで多くの人に見てもらい、Kさんのやる気と、普段あまり接点がない職員と多く触れ合ってもらえるように似顔絵制作を現在進行中です。一人ひとりの特徴を捉え独自のタッチで出来上がった職員の似顔絵は大変好評で「すごい」「似てる」「そっくり」「もう少し美人に描いて」など大賑わいで、本人も大喜びです。七八歳になり体力も衰えが見え始め、出来る事も限られてくる中で「今度はいっ行くとな？(似顔絵描きに)」と大変楽しみにされています。毎日の生活の中で普段とは違う刺激がKさんの楽しみになることができ、担当としてとても嬉しく思います。

今後はさらに多くの人にKさんの素晴らしい絵を見て頂き、健康に気を付けながら、毎日の楽しみがより一層増えていくように支援をさせて頂ければと思っています。



『意思決定支援の姿』
 荅山寮副施設長 鮎田 一喜

先月広島での障害者支援施設部会全国大会に施設長と出席しました。行政説明の内容も始めは国連で批准された障害者権利条約に基づいた、脱施設に対する地域移行ありき、グループホームへ移動できる人たちが、掘り起こす事に焦点を当てていた印象でした。今回は結局、まず利用者の意思確認を行うための手順について、マニュアルを作成する協議を重ねるといふ点に軟着陸したようでした。国連から利用者の地域移行が充分でないという指摘は御尤もだとしても、結論を急ぐことはこちらの都合にしかならないと思われまふ。私達が利用者の意思を確認する事は地域移行に限らず、普段から悩める課題です。講演の中で引用された『哀れみはいらない全米障害者運動の軌跡』の一文に「私達が求めていることはそんなに複雑ではない。ふつうの尊敬と社会の一構成員として地域で生きるための機会を得ること。人間としてあたりまえなことの実現を求めているだけ」とありました。職員が利用者の生活を支援する本分を忘れず、利用者も障害に関わりなく当たり前の人生を送ることが出来る施設を作っていく事が脱施設に対する答えになり、今まで施設を支えてきた人達の思いに報いるのだと信じております。



『入職して五年が経ち』
 荅山寮看護師 田中 美奈子

昨年の十月で荅山寮六年

目になりました。病院勤務から施設看護師への転職と同時に、新型コロナウイルス感染症の対応も始まり、慣れない職場環境や業務内容に戸惑いが多いスタートでした。また、自身のコロナ罹患や後遺症にも悩まされ、健康維持の難しさや後遺症の辛さをもつて経験いたしました。施設看護師として利用者や職員の健康維持に携わらなければならぬ立場であるにも関わらず、知識も経験も浅く迷うことが多い中で、利用者や職員にご迷惑をおかけする事も沢山ありました。このような現実に挫けてしまつたこともありましたが、利用者の変わらない笑顔と、苦楽を共に過ごし、支えてくれた仲間がいてくれたお陰で、看護師を続けられていきます。また配置医をはじめ、医療機関、各関係機関の皆様のご協力のお陰で、様々な困難も乗り越えることができました。まだまだ施設看護師としては充分な看護の提供はできていませんが、これからも利用者や施設を支える職員のために、看護師としてやるべき事を模索しながら仲間と共に協働していきたいと思っております。



『入職して十年が経ち』
 第二荅山寮支援主任 柴田 玉子

私達の仕事は自分の言葉かけや対応で利用者の笑顔や様々な反応が返ってくる事が一番の魅力だと思っております。この仕事に初めて就いた頃は、自分の先入観で利用者を見てしまう事や苦手意識を感じる事もありました。一人ひとりが異なる特性を持つておられる方なので、対応に困つてしまふ事も多々ありました。支援をする中で先輩職員を真似て対応したつもりが不慣れと利用者さんとの信頼関係が出来ていない事もあり、全ての人に同じ方法が通じるわけもなく、そのことに対し悩む事もありました。それでも上司、同僚、看護師の皆さんに相談し、指導、協力を得ながら現在まで仕事を続ける事が出来ました。失敗する事もありましたが、利用者の笑顔が増えた時、生活に良い影響が出てきた時等は、やりがいを感じると共に皆と喜びを共有する事が出来、とても嬉しく思いました。この仕事は自分一人で行える事は限られています。職員全体で同じ目標に向かって仕事をした時、その先に利用者の笑顔があります。職員、利用者一人ひとりに「ありがとう」の気持ちを忘れず、今後も利用者の方に笑顔と安心した生活を提供出来る様支援していきたいと思っております。

クリスマス会 12月25日 第二苓山寮

始めに利用者合唱「あわてんぼうのサンタクロース」、続いて職員

は「あめのみつかいの」を合唱しました。会のメインは「クリスマスだよ!コスプレのど自慢大会」です。カラオケ好きな7名の方がサンタ帽やカツラで変装し参加されました。また、利用者代表として審査委員にはIさんを選出させて頂きました。普段は寡黙な方ですが、〇×札を使った辛口の審査は、会場に大きな笑いを生み、今年も大いに盛り上がりました。来年は両施設で開催出来る事を切に祈ります。



餅つき

今年の餅つきは、苓山寮がインフルエンザによる感染症対応だった事もあり第二苓山寮のみでの実施となりました。臼が一台、餅つき機二台をフル回転させ、利用者の方と協力し餅をつきました。特に杵を使い搗く、昔ながらのやり方では、若い利用者の方よりも、昔からしてこられた年配の利用者の方が上手に、そして楽しそうにされているのを見て、準備等は大変ですが実施して良かったと感じる瞬間でもありました。また、今回のもち米は、第二苓山寮の坂口さんのご家族から頂いたもち米を使用させて頂きました。昨今の米の価格が上がっている中で非常に有難かったです。



新春企画 (今年の抱負)

新しい年が始まりました。皆さんは、今年1年をどんな年にしたいと思っていますか。今年も新春企画として巳年生まれの年男・年女の皆さんに新年の抱負を語っていただきました。



事務長 大塚 伸二

(昭和40年生まれ)

60歳という節目の年を迎えますが、変わらず孫の成長を楽しみながら、私生活では趣味を見つけるために新しいことに挑戦し、仕事面では、少しずつ仕事の引き継ぎをしていけたらと思います。

グループホーム支援員 丸谷 孝太郎

(昭和28年生まれ)

新年にあたって、利用者の方と語り笑顔を増やし、誰かのためはいつか自分のためになる精神で過ごしていきたいと思います。

グループホーム支援員 岡部 千恵

(昭和40年生まれ)

還暦を迎えます。還暦とは干支が一巡し誕生年の干支に還る事。赤いちゃんちゃんこは赤子に戻り、もう一度生まれ変わって出直すという意味だそうです。今年巳年です。再生や永遠の象徴とされ皮を脱ぎ捨て、新たな姿に生まれ変わる姿がその象徴だそうです。私も人生をリセットし、新しいことに挑戦し前向きに進んでいきたいです。

サポートスタッフ

鶴田 喜美子

(昭和40年生まれ)

今年節目の年女となり今までやりたかった事に挑戦し、今年一年蛇の様にニョロニョロとゆっくり進みながら楽しく笑って過ごしたいと思います。

茶山寮支援員 山口 瑞稀

(平成13年生まれ)

どんな事が立ちは大かってもミー(巳)たちの力でニョロニョロとすり抜けてやるんだ(蛇)ニョロ。太り気味なのでダイエットと仕事を両立しながら頑張りたいと思います。

第二茶山寮厨房職員 迫口 弓美

(平成元年生まれ)

体調に気を付けながら、これまで以上に仕事を頑張る家族みんなで美味しい物を食べに行けたら良いなあと思います。



本年も利用者の皆様に喜んでいただけるよう給食全員で精進してまいります。

令和七年お正月祝い膳。献立は、巻きずし、いなりずし、焼きそば、春巻き、鴨のロースト、エビフライ、卵焼き、付け合わせにレタス、プチトマト、デザートはワッフルの生クリームのせでした。茶山寮は感染症対応中でしたが、第二茶山寮・グループホームは陽性者もなく、お屠蘇や日本酒などと共にゆっくりと昼食を楽しまれていらっしやいました。茶山寮の利用者の方もボリューム満点の食事を満面の笑みで完食してくださる方が多く見られました。

『お正月の食事』

茶山寮管理栄養士 長嶋 さおり

【祝成人】



切通 将英さん
(荅山寮)



渡部 結水さん
(荅山寮)



花田 勝さん
(GHかなで)



山川 幸太さん
(GHかなで)

ご成人おめでとございます。いよいよ
私たち大人の仲間入りです。
新しい出発に、そして一層の
ご活躍を期待して乾杯！



【結婚お祝い】

荅山寮、松山支援員が一月二日、入籍されま
した。末永い幸せを願っております。
♥ おめでとございます ♥

【出産お祝い】

荅山寮、池田副主任に第三子のご
誕生です。
お名前は灯李（とうり）君だそうで
す。お子さまの健やかなご成長とご
家族皆様のご多幸をお祈りしてあり
ます。



鬼火焚き 一月十日

竹や木に火がつけられる
と勢いよく燃え上がり、時
折、竹のはじける音が鳴り
響きました。

皆さんで、無病息災、健
康を祈り煙をいっぱい頭
にかぶりました。



日常生活の風景



金子 順子さん

現在七一歳となられま
す。日々の生活の中で会
話を楽しむ時間を設けて

いますが、自宅から持って来られたウサギのぬいぐ
るみがお気に入りです。「ウサコちゃん」と呼びウサコ
ちゃんを含めた三人での会話を楽しんでいきます。
お喋りをしながら楽しそうに笑って下さる姿が私
にとってはとても癒しになっています。

また、歩行活動では歩き始めると疲れを見せる
事無く最後まで歩かれる頑張り屋さんです。今後
も順子さんに健康で笑顔の絶えない施設生活を
送って頂ければと思います。

堀切 雪吉さん



七六歳になられました。
週三回の人工透析を受け
ておられますが、普段の
生活を皆さんと同様に楽しんでおられます。

特に今年度は映画同好会に参加をされました。
映画は過去に視聴されていた仮面ライダーや
ウルトラマンを視聴希望されています。視聴
後は他のメンバーと感想を話し合うこともあ
り、同好会を楽しんで頂けている様子です。
今後も病気と上手く付き合いながら、普段
の生活を楽しんで過ごせるよう色々な体験を
して頂きたいと願っています。

行事予定

一月

二二日 第四回管内研修

二月

三日 節分豆まき

十一日 建国記念日

十七日 チャレンジおゼロ

十八日 亀川小学校駒打ち体験

二三日 天皇誕生日

二四日 振替休日

三月

五日 ひな祭り交流会

十七日 チャレンジおゼロ

二十日 春分の日

二六日 花見会

編集後記

明けましておめでとうございます。

荅山寮では、年末までインフルエンザ対応となりま
したが無事解除となり、利用者の方々と新年の挨拶
を交わしながら、平和な日々を過ごせている事を幸
せに思いました。二〇二五年は巳年です。蛇は再生
と復活の象徴である事の他、漢字の巳と実を掛けて
努力が実を結ぶという意味もあるそうです。新年を
迎え気持ちを新たに、目標に向かって日々努力を重
ねていきたいと思っています。今年も利用者の方々
と一緒に笑いたい、楽しい思い出を沢山作ってい
きましょう。皆さまにとって、幸多き
一年でありますように。本年もよろ
しくお願い致します。

